１学年第２時　「なんでもキャッチ」支援プラン　コミュニケーション基礎

【エクササイズ（ＥＸ）＆準備物】

　　ウォーミングアップ『あとだしじゃんけん』：準備物なし

　　メインＥＸ『なんでもキャッチ』　　　　 ：いろいろなボール、たわしなど

【ねらい】

　コミュニケーションの基本は、お互いが相手をしっかりと受けとめるということからはじまる。言葉は目に見えないが、「じゃんけん」や「ボール」を言葉に見立て、じゃんけんをしたりボールを投げたりすることで、コミュニケーションの疑似体験を行う。じゃんけんやボールを使ってコミュニケーションを可視化するのである。言葉を投げかけたり、受けとめたりするうえでの大切な事に気づいていく。

【概要】

　『あとだしじゃんけん』では、勝つことには慣れているが、負けることには無意識の抵抗があるために間違ってしまう。相手の手をしっかりと見るということが大切になってくる。『なんでもキャッチ』は１５人～２０人くらいがやりやすい人数である。人数が多い場合は学級を二つのグループに分け、教員が必ず各グループの中に入ってリードしていく。ボールを投げる人が「～さん」と名前を呼び、名前を呼ばれた人は「はい」と答える。そしてはじめてボールを投げることができるのである。はじめは乱暴に投げていた子どもも、うまく受け取ってもらうにはどうしたらよいかに気づきはじめる。失敗を重ねて、なかなか全員にまわらないボールも、最後まで到達できたときには、子どもたちから歓声があがる。

【流れ】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 留意点・教具等 |
| ウォーミングアップ | 『あとだしじゃんけん』  　 教員が音頭をとって全員とじゃんけんをする。  ①あとだしで教員に勝つ。  ②あとだしで教員に負ける。  ③あとだしで教員とあいこになる。 | ○「さいしょはグー、じゃんけんポン、ポン」の最初のポンで教員が、二回目のポンで生徒が出す。 |
| エクササイズ | 『なんでもキャッチ』  ルール（教員がモデリングをしながら説明）  教員が輪の中に入り最初の１投目を投げる。  1)投げる相手の名まえを呼ぶ。  2)呼ばれた相手は返事をする。  3)返事を聞いた後ボールを相手に投げる。危険な投げ方ＮＧ  4)投げられた相手は、ボールを捕る。  5)次の相手を見つけて名まえを呼ぶ。  6)以降、くりかえして全員にまわす（一人一回）。  　　　　全員にボールがまわるか・・・  7)落としたり、取れなかったりすると、初めからやり直す。  8)名前を呼ばなかったり、返事を忘れてもやり直す。 | ○椅子に座って円をつくりグループになる。  ○グループ分けは班単位で分けるなどの機械的な分け方をする。男女混合の方が望ましい。  ○ボールが非常に苦手な子どもがいる場合には、パーソナルルールを決めてもよい。 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 留意点・教具等 |
| エクササイズ | ①グループに分かれて、教員からスタートする。  ②相手の名前を呼び忘れたり、返事をし忘れたりすると、教員がストップをかける。（返事を待てずにボールを投げてしまうことが頻発する－ＮＧ－ので、必ず厳格に判断する。）  ③教員がうまく投げたり、受けとめたりするポイントを言わない。何度もくり返すことで生徒に気づく機会を与える。  ④全員、無事まわることができたら、ボールの種類を変える。  ⑤最後に、タワシなどの投げにくく、受け取りにくいものを　 使用する。 | ○失敗すると、投げる相手を変えるのではなく、同じ順番で相手に投げた方が、気づきが得やすい。  ○最後のほうになると、グループの中で、盛り上がるが、緊張感も高まる。 |
| ふりかえり・シェアリング | ①グループで気づきを交流する。  　＊うまくまわった時は、どんな時か。  　 ＊うまくまわらなかった時は、どんな時か。  ②ふりかえり用紙に記入する。 | フィードバックの視点  ・本人の気づきから出でるのはもちろんだが、まわりから見た気づきというものも出せれば良い。 |

〔参考文献〕『エンカウンターで学級が変わる　ショートエクササイズ集』

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　図書文化社　國分康隆監修 「自己紹介トス」

【ポイント】

　非常に活動的な子どもいれば、活動が苦手な子どももいるので、教員がしっかりとルール説明をし、厳格なルールのもとで行うことが肝心である。生徒どうしのキャッチをＯＫにするかアウトにするかちゃんと判定することが重要。椅子のみの活動で、ボールを使うというエクササイズであるので、しっかりとした場づくりが要求される。教員も輪の中に入って、ジャッジしながらもいっしょに成功させようという立ち位置が望ましい。

|  |
| --- |
| 子どもの気づき |
| ・クラスのチームワークがよくなったと思ったし、仲もよくなったと思った。周りのことを考えないと成功しないゲームだと思った。生活の中でも人のことを考えたり、見通しをもって生活したい。  ・大きな声を出さないといけないなと思った。よそ見せず，物を持っている人をしっかりと見ないといけない。  ・ボールの投げ方とコミュニケーションの取り方が一緒だと思った。 |

|  |
| --- |
| 教員からのコメント |
| ・初めて相手の名前を呼んだという生徒もいて、とてもよい機会になりました。大きい円になった方が気づきが多かったように思います。ボールを投げ、それを受け取るというだけの授業ですが、深い気づきを得ることができたようです。タワシを使った「なんでもキャッチ」は、トゲのあるたわし＝きつい言葉というイメージを簡単に持つことができたようで、やさしい言葉かけの意味が伝わったようです。 |

＊道徳の内容項目との関連：　1-(1) 基本的な生活習慣　　2-(2) 思いやり

（担当：山本　良子）